

## 開会挨拶

中田 英雄

(筑波大学教育開発国際協力研究センター)

---

皆さん、新年明けましておめでとうございます。本日は、平成 20 年度文部科学省筑波大学国際教育協力シンポジウム開発途上国における派遣現職教員の活躍の帰国隊員報告会にお集まりくださいまして誠にありがとうございます。さて、本日のシンポジウムでは北は北海道から、南は宮崎県まで、駆けつけていただきました 16 名の帰国隊員の皆様による、任地における活動の成果を発表していただきます。また、文部科学省国際協力イニシアティブ平成 20 年度教育協力派遣形成事業において青年海外協力隊派遣現職の支援事業を担当しています、お茶ノ水女子大学、日本女子大学、宮城教育大学、鳴門教育大学、筑波大学の活動報告もあります。さらに、京都市教育委員会及び、愛知県教育委員会の方々により、派遣経験を生かした、教育活動に関するパネルディスカッションがあります。本日のプログラムは、以上の三本立てになっております。

ところで、私は、派遣された現職の先生方が任地の学校現場で職務した体験や問題、そして感動的な出来事などに関心があります。先生方は、学校現場での体験や問題にいかにして対応されてこられたのでしょうか。日本での経験がそれに役立ったのでしょうか。これらのことは、今後のより効果的で組織的なサポートシステムを作っていく上での参考になると思います。具体的な例をあげてご発表していただけると幸いです。子供たちや、同僚との触れ合いを通して、あるいは生活の中で、多くの感動と喜びを体験されたことでしょうか。これらの体験は、血となり肉となり、計り知れない財産となります。これからの長い教育生活でこの財産を有効に活用して教育現場や地域社会に還元してほしいと願っています。どんな還元の仕方があるのでしょうか。それは、本日のパネルディスカッションの場でもあります。途上国にあたる教育協力経験を通して、先生方はコミュニケーションの能力、異文化理解能力、困難な状況に直面し、それに対応する能力、日本の教育と途上国との教育を比較し、相対的にみる能力、を身につけてこられたのだと思います。このような能力を確実に身につけた先生方は、今後の教育現場で貴重な人材となることは間違いありません。

本シンポジウムを開催するにあたって、文部科学省及び、国際協力機構の皆様方にご指導とご支援を賜りましてこの場をお借りしてお礼申し上げますとともに、今後のご支援をお願い申しあげまして、大会の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。活発なご討論と、ご意見をお願い申し上げて私の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。